# FUJIFILM Sustainable Value Plan 2016 活動報告

| | | 重点課題 | 自己評価 | | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| 製品・サービスなどを通じて、環境、人々の健康・生活・働き方に関する社会課題の解決に貢献【推進方針1】 | 健康 | 1. 医療サービスへのアクセス向上 | ○ | ・教育研修サポートや各種製品の提供など、積極的な新興国支援で貢献 | P18<br>P27～29 |
| | | 2. 疾病の早期発見への貢献 | ○ | ・医療用画像診断機器、医療IT、内視鏡などで貢献 | |
| | | 3. アンメットメディカルニーズへの対応 | ○ | ・がん、感染症、神経疾患などに対応する新薬開発<br>・再生医療の産業化に向けたM&A、共同研究の進展 | |
| | | 4. 健康増進、美への貢献 | ○ | ・アスタリフト、メタバリアなど、独自の技術を生かしたサプリメント・化粧品を提供 | |
| | 生活 | 1. 安全、安心な社会づくりへの貢献 | △ | ・独自のBaFe磁性体技術によるデータアーカイブは貢献・セキュリティレンズ以外の想定した製品の普及が不十分 | P19<br>P30～31 |
| | | 2. 心の豊かさ、人々のつながりへの貢献 | ○ | ・人生を豊かにする写真文化普及のためのフォトルネッサンス運動(instaxチェキ、YearAlbum、Xシリーズ等)<br>・地方創生活動「みらい創り」による地域活性化への貢献 | |
| | 環境 | 1. 地球温暖化への対応 | ○ | ・$CO_2$排出削減目標を達成 | P20<br>P32 |
| | | 2. 水問題への対応 | △～○ | ・イオン交換膜、太陽電池用バックシート、遮熱フィルムなどの貢献技術・製品を開発、提供 | |
| | | 3. エネルギー問題への対応 | | | |
| | 働き方 | 1. 情報の壁を越えるコミュニケーションの促進 | ○ | ・「ドキュメントコミュニケーション」「スキャン翻訳サービス」などの提供により、コミュニケーションの最適化に貢献 | P21<br>P33 |
| | | 2. ダイバーシティーの促進 | ○ | ・自社の働き方変革を実践し、具体的な成果を創出するとともに、お客様の働き方改革に貢献 | |
| 生産活動などの事業プロセスにおける環境課題への積極的な取組みを推進【推進方針2】 | | 1. 地球温暖化対策の推進<br>・2020年度に2005年度比30%$CO_2$排出量削減 | ○ | ・2016年度目標(2005年度比$CO_2$排出量10%削減)達成 | P22<br>P35～37 |
| | | 2. 資源循環の促進<br>・水目標:売上あたり使用量を2016年度に2012年度レベルに維持<br>・資源目標:2020年度に2012年度比10%削減<br>・廃棄物目標:2016年度に2012年度比8%削減 | ○ | ・水使用目標(2012年度レベル維持)をすべての年度で達成<br>・資源投入2016年度目標(主要製品の検証仕組み化)達成<br>・廃棄物目標(2012年度比8%削減)に対し、5%の削減 | P22<br>P38～39 |
| | | 3. 製品・化学物質の安全確保 | ○ | ・国際動向を踏まえた化学物質管理規則の抜本改定、運用開始。それに伴うサプライチェーン管理の強化・推進 | P22<br>P40 |
| 企業活動を支えるCSR基盤をバリューチェーン全体にわたり強化【推進方針3】 | | 1. グローバルなコンプライアンス意識の向上とリスクマネジメントの徹底 | △～○ | ・リスク対策、研修の継続実施、震災を教訓としたBCPの強化<br>・健康推進協議会による禁煙運動、がん対策等の進展<br>・国際NGOとのダイアログ等、人権リスク対策の検討、実施 | P23<br>P43～47 |
| | | 2. 多様な人材の育成と活用 | ○ | ・Work Style Innovationの実践、グローバル研修等、従業員の多様性を活かす環境整備を推進 | P23<br>P48～51 |
| | | 3. CSR視点でのバリューチェーン・マネジメントの強化 | ○ | ・調達方針の改定・周知など、CSR調達は順調に推移<br>・各国の法規制強化に向けた社内現状把握と動向把握 | P23<br>P52～54 |

## 事業を通じた社会課題の解決

新興国の医療従事者への教育・研修サポート

グループの最新技術で再生医療の産業化を促進

感染症の早期発見に貢献

医療関係者の負担を軽減する製品の提供

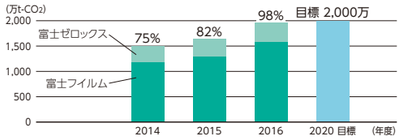
フォトブックサービス「Year Album」

地方創生活動「みらい創り」を各地で展開

生活習慣の改善、健康的なダイエットをサポートする機能性表示食品

貴重なデータを安全に保管する磁気テープによるデータアーカイブ

▼お客様先での$CO_2$排出削減目標と実績

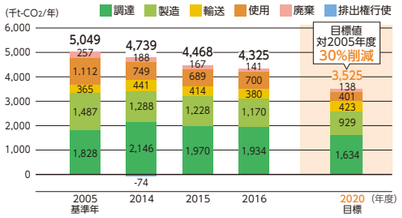


お客様先での$CO_2$排出削減効果の高い製品の開発・普及

働き方改革を支援する「Smart Work Gateway」の推進

## 事業プロセスにおける環境・社会への配慮

▼製品ライフサイクル全体での$CO_2$排出量の推移



2020年度目標に向けての製品ライフサイクル全体での$CO_2$排出量削減

新たな化学物質管理規則の運用開始及び、化学物質管理を含むCSR調達活動の強化

健康経営による従業員への健康増進活動

働き方変革を実践するWork Style Innovation活動

SDGsとの関係性

## 推進方針1　製品・サービスなどを通じて、環境、人々の健康・生活・働き方に関する社会課題の解決に貢献

# 健康

**社会課題**
国際社会のリスク

- 高齢化
- 医療費増大
- 医療の地域格差
- 健康寿命
- アンメットメディカルニーズ
- グローバルヘルス　etc.

SDGsの目標にも掲げられている「健康」。例えば糖尿病は予防や治療が可能な病気であるにもかかわらず、多くの国、特に開発途上国で劇的に増加、その原因の一つは現代病でもある肥満です。世界の糖尿病患者は4億2,200万人、糖尿病による死亡者は約150万人で、今後20年間で倍増すると見込まれています。糖尿病のもたらす問題が世界でより深刻化したことから、WHOは2016年の世界保健デーのテーマを糖尿病としました。

世界の成人の糖尿病有病者数
WHO「Global report on diabetes」

**基本的な考え方**

「健康」は人々にとって最も関心が高く、重要なテーマですが、医療の格差、医師不足、医師負担の増加、医療費の高騰など、様々な課題があります。富士フイルムグループは、創業間もない1936年からレントゲンフィルムの製造をはじめ、長年、「診断」領域で貢献してきました。近年、「予防」「治療」へも領域を拡大、当社グループの成長戦略の一つと位置づけ、「人々の健康」分野での貢献の幅を広げることに取り組んでいます。今回の計画策定にあたっては、当社グループの持つ技術、製品、サービスを棚卸しし、社会課題解決に向けた貢献の可能性の大きさから4つの課題を設定しました。

**重点課題1　医療サービスへのアクセス向上**
目 標　(1) 新興国の医療環境の改善
(2) 災害・救急医療における診断機会、精度の向上
(3) 医師負担の軽減による診断機会、精度の向上

**重点課題2　疾病の早期発見への貢献**
目 標　正確性を向上、身体的負担を軽減した検査システムの普及拡大

**重点課題3　アンメットメディカルニーズへの対応**
目 標　有効な治療法が見つかっていない疾病の治療薬の開発

**重点課題4　健康増進、美への貢献**
目 標　(1) 健康寿命を延ばし、ポジティブな毎日をサポート
(2) 健康的な美しさを維持し、輝き続けたい女性を支援

## SVP2016における主な活動と成果

**関連事業分野**

●ヘルスケア　●ドキュメント

**重点課題1**
- ●パブリックヘルスの課題を解決する感染症診断システムの研究・開発
- ●災害現場や救命救急で役立つ小型携帯タイプの超音波画像診断装置の開発・販売
- ●新興国の医療従事者をサポートする教育プログラム作成、研修の実施
- ●●地域医療連携をサポートする病院向けITソリューションの開発・導入
- ●医療・医薬現場の負担を軽減する様々な製品を開発・販売

**重点課題2**
- ●疾病の早期発見・早期治療に貢献する内視鏡システムの開発

**重点課題3**
- ●再生医療の産業化に向けて技術面・経営面で強化
- ●がんやアルツハイマーなどに対応する新薬の開発を推進
- ●治験業務のネットワーク化で医薬品の早期開発をサポート

**重点課題4**
- ●健康寿命をサポートし、老化を抑える成分を取り入れたサプリメントや機能性化粧品の開発・販売

富士フイルムグループはトータル・ヘルスケア・カンパニーを目指し、高性能の医療機器開発やM&Aなど、着実に体制強化を図りつつ、4つの重点課題に対し、大きく貢献しました。

### 1. 医療サービスへのアクセス向上

中東、アフリカ地域での教育研修サポートや、小型携帯タイプの超音波診断装置、病院向けITソリューションなどハード・ソフトの両面から、新興国を含む、市民の医療サービスへのアクセス向上や、医療従事者の負担軽減に貢献しました。

### 2. 疾病の早期発見への貢献

内視鏡をはじめとする医療用画像診断機器やインフルエンザ迅速検査システムの浸透により、疾病の早期発見に貢献しました。

### 3. アンメットメディカルニーズへの対応

がんやアルツハイマーなどに対応する新薬の開発を進めたほか、副作用が少なく、高い効能が期待できるバイオ医薬品を中心とする医薬品のプロセス開発・製造受託事業の拡大を図りました。また再生医療の産業化に向け、M&Aや、複数の国際的研究機関との共同研究を開始するなど、技術面・経営面を強化しました。

### 4. 健康増進、美への貢献

写真フィルムの抗酸化研究で培ってきた知見や、独自のナノ化技術をもとに、新たなサプリメントや化粧品を提供し、健康寿命の延伸や女性の活躍に貢献しました。

### 新CSR計画「SVP2030」に向けて

アンメットメディカルニーズへの対応として、がん、感染症の治療薬の開発や、アルツハイマー型認知症の予防・診断・治療法の開発に注力していきます。また再生医療を通じて、薬で治せない疾患の治療への貢献、さらに高齢化に伴う在宅医療の促進や医師負担の軽減、新興国を含めた疾病の早期発見への貢献、及び健康寿命を延ばすための取り組みを進めていきます。

# 生活

**社会課題**
国際社会のリスク

- 安全・安心
- 情報の保存・伝達
- 関係性・生きがい
- 文化・芸術の継承・保存　etc.

あらゆるものがデジタルデータとして保存されるビッグデータ時代、世界で生成されるデータ量は飛躍的に増加し、2013年の4兆4,000億ギガバイトから2020年には44兆ギガバイトへと10倍の規模に拡大すると予想されています。しかし2013年の時点で利用可能なストレージに保存できるデータは全体のわずか33%、2020年までには15%以下に下がると言われ、貴重なデータを安全に管理する方法が課題となっています。

世界で生成される
2020年のデジタルデータ量
IDC調べ

**基本的な考え方**

富士フイルムグループの創業の原点と言える写真には、思い出をカタチに残し、人生を豊かにする力があります。2011年の東日本大震災で行った「写真救済プロジェクト」により、その思いは強くなりました。復興支援活動のなかから生まれた「遠野みらい創りカレッジ」では、これからの地域活性化のあり方を模索しています。写真、ドキュメントによるコミュニケーションの活性化、文化遺産を後世に伝えること、社会にとって重要なデジタルデータの安全な保存、事故や犯罪の少ない安全な社会で、誰もが人々とのつながりを持ち、心豊かな人生をおくることへの貢献を目指し、新たな製品、サービスを開発し、社会に普及させています。

**重点課題1　安全、安心な社会づくりへの貢献**
目 標　重要情報の長期保存、防犯、情報セキュリティ向上、社会インフラの安全性向上に寄与する製品の普及

**重点課題2　心の豊かさ、人々のつながりへの貢献**
目 標　(1) 貴重な文化・芸術作品の伝承への貢献
(2) 地域コミュニケーション活性化のためのソリューションの開発
(3) 思い出をカタチにし人生を豊かにする写真製品の普及

## SVP2016における主な活動と成果

**関連事業分野**

●ドキュメント　●高機能材料
●デジタルイメージング　●光学デバイス

**重点課題1**
- ●貴重なデータを未来に残す磁気テープによるデータアーカイブ
- ●セキュリティを高める監視用レンズで安全・安心をサポート

**重点課題2**
- ●●文化・映像資産の保存に貢献する高度な写真技術・複製技術
- ●産官学民連携で行う地方創生活動「みらい創り」
- ●観光振興を支援する新たなコミュニケーションツール
- ●人生を豊かにする写真文化を普及するフォトルネッサンス運動

### 1. 安全、安心な社会づくりへの貢献

「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」などの独自技術を使用した「FUJIFILM LTO Ultrium7データカートリッジ」やデータアーカイブサービス「d:ternity」を展開し、大容量のデータを長期間、安心、安全に保存できる仕組みを拡大、$CO_2$排出削減にも貢献しました。また、監視用レンズでセキュリティ強化について継続的に貢献できましたが、新たな取り組みは十分ではなかったと認識しています。

### 2. 心の豊かさ、人々のつながりへの貢献

3つの観点で大きな貢献を果たしました。具体的には、博物館や図書館などに対して各種アーカイブサービスの提供で日本の貴重な**文化・芸術作品の伝承**に、また地域「みらい創り」活動や観光振興を支援する新たなコミュニケーションツールを提供することで**地域コミュニケーションの活性化**に貢献しました。

**思い出をカタチにし、人生を豊かにする写真製品の普及**という点では、「Xシリーズ」のミラーレスデジタルカメラにより快適な操作性で高画質な写真を楽しめる機会を提供したことから、市場で高い評価を受けました。またレンズ付きフィルムや、撮影したその場で写真プリントが楽しめるインスタントフォトシステム、さらに「Year Album」や「シャッフルプリント」など、人々の生活に彩りを与える付加価値プリントや、「"PHOTO IS"想いをつなぐ。50,000人の写真展」を規模を拡大して実施してきたことで、写真を身近に楽しむ人や機会を増やすことができ、高評価を得ました。これら様々な製品により、豊かな生活の実現への貢献ができたと考えています。

### 新CSR計画「SVP2030」に向けて

カメラや多様なプリントなどの各種写真製品、及び写真を楽しむ場の提供を継続し、人々の人生の豊かさや平和な暮らしの実現に貢献していきます。また、磁気テープに加え、建造物などの社会インフラの強化や、半導体やディスプレイ材料の提供により、安全、安心な社会づくりに貢献していきます。

## 推進方針1　製品・サービスなどを通じて、環境、人々の健康・生活・働き方に関する社会課題の解決に貢献

# 環境

**社会課題**
国際社会のリスク

- 地球温暖化
- 資源の枯渇
- 水問題
- エネルギー問題　etc.

SDGsの目標にも掲げられている気候変動とエネルギー問題。COP21において採択された「パリ協定」では、世界共通の長期目標として2℃目標（産業革命前に比較して気温上昇を2℃未満に抑える）を改めて明記。この目標達成のためには、多様な技術革新と生活者の行動の変化による省エネ対策、さらには電力の脱炭素化を図り、再生可能な低炭素エネルギーの普及を推進していくことが重要となっています。

**40～70%削減**

2050年までの温室効果ガス削減量目標（2010年比）
IPCC第5次評価報告書

**基本的な考え方**

国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の最新報告によれば、「現状以上の温暖化対策を何も行わないならCO2排出量は減少に向かわず、2100年に約4度前後も上がってしまう可能性が高い」と言われるなど、地球温暖化は深刻化しており、世界共通の最重要課題の一つです。また、昨今は水リスクも重要課題として、注目されています。富士フイルムグループは、写真フィルムの開発、製造で培った高機能材料など環境負荷の少ない製品、働き方変革をはじめとしたソリューションで、これら環境課題の解決を目指してきました。

**重点課題1　地球温暖化への対応**
目 標　2020年度までに2000万トンのCO2削減に貢献する（2005年比）

**重点課題2　水問題への対応**
目 標　水汚染の軽減・抑制

**重点課題3　エネルギー問題への対応**
目 標　環境負荷の少ないエネルギー創出への寄与

## SVP2016における主な活動と成果

**関連事業分野**

●高機能材料　●グラフィックシステム　●ドキュメント

**重点課題1**
- ●CO2排出削減に貢献するデータストレージメディアの発売・普及
- ●環境負荷低減を実現する印刷分野向け省資源ソリューション
- ●環境性能に優れたオフィス製品・サービスの開発
- ●環境課題を解決する高機能材料の開発

**重点課題2**
- ●効率的な水利用をサポートするイオン交換膜の開発

**重点課題3**
- ●太陽電池の耐久性を高める太陽電池用バックシートの開発・普及
- ●天然ガスを高効率に活用するガス分離膜モジュールの研究

3つの重点課題に対し、所期目標を概ね達成しました。

### 1. 地球温暖化への対応

「2020年度までに2,000万トンのCO2削減に貢献する目標（2005年比）」に対し、1,967万トンのCO2削減貢献量と、「2016年度までで前倒し達成」までもう一歩のところまで、大幅に進展しました。これには、アーカイブデータ保存向けの新世代磁性体バリウムフェライト（BaFe）を使用した大容量データストレージメディア（LTO磁気テープ）、クリニック用ITソリューション（SYNAPSE）、省エネ型複合機、オフィスでの種々の環境ソリューションが大きく寄与しました。

### 2. 水問題／3. エネルギー問題への対応

フィルトレーション材料や太陽電池用材料など、高機能材料の提供・普及を通して貢献を図りました。

▼社外から評価を受けた主な環境製品ソリューション

| 受賞対象 | 年度 | 受賞内容 |
|---|---|---|
| カラー・オンデマンド・パブリッシングシステム | 2014 | エコプロダクツ大賞「経済産業大臣賞」 |
| 環境負荷低減と高耐久性を実現する太陽電池用保護フィルム | 2014 | グリーン・サスティナブル ケミストリー賞「環境大臣賞」 |
| フルカラーデジタル複合機 | 2015 | 省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」 |
| セブン・イレブンのマルチコピー機でのカーボン・オフセット | 2015 | カーボン・オフセット大賞「優秀賞」 |
| 大容量磁気テープを使った省エネルギー型「テープアーカイブアプライアンス」 | 2016 | 省エネ大賞「資源エネルギー庁長官賞」 |
| 低環境負荷・高画質を実現する革新的トナー技術の開発 | 2016 | グリーン・サスティナブル ケミストリー賞「環境大臣賞」 |
| アスタリフト（化粧品）購入によるカーボン・オフセット | 2016 | カーボン・オフセット大賞「優秀賞」 |

## 新CSR計画「SVP2030」に向けて

CO2排出削減に関しては、上記製品のさらなる普及とともに、CO2排出削減につながる高機能材料製品の新たな開発・普及に取り組みます。世界的に深刻化しつつある水問題に関しては、新たに設定した数値目標に向かい、フィルトレーション材料やグラフィックシステムでの廃液削減などにより、水処理への貢献を高めていきます。

# 働き方

**社会課題**
国際社会のリスク

- 就労格差
- 労働人口減少
- ダイバーシティー　etc.

SDGsは、ジェンダーの平等、経済・雇用を目標の一つに掲げています。また日本では、2016年4月1日に女性の職場における活躍を推進する「女性活躍推進法」が制定されました。将来の労働力不足とともに、ニーズの多様化やグローバル化に対応するためには、あらゆる分野で人材の多様性（ダイバーシティー）を確保することが不可欠となっており、女性の活躍の推進は特に重要な課題といえます。

いずれかの議院で占める議員数
全体での女性の割合（46カ国）
持続可能な開発目標ファクトシート（2015.9.17）

**基本的な考え方**

富士フイルムグループは、身近な紙の情報を電子情報と融合し、さらにはクラウドサービスやモバイルソリューションとシームレスに統合することによって、社会のコミュニケーション環境を進化させてきました。デジタルデバイドを意識することなく、誰もが容易に様々な形態の情報にアクセスし共有することにより、オフィスや行政機関、教育や医療の現場など、あらゆる場所のサービスのあり方や働き方の可能性を広げていく。そのような「人」を中心においた価値あるコミュニケーションを通じて、新たな時代の多様な働き方を支援しています。

**重点課題1　情報の壁を越えるコミュニケーションの促進**
目 標　企業内外のコミュニケーションを促進するソリューション・サービスの導入や提供事例の拡大

**重点課題2　ダイバーシティーの促進**
目 標　時間や場所に左右されず、個人の専門性や生活設計に応じた働く環境を作るソリューションの実用事例の創出と拡大

## SVP2016における主な活動と成果

**関連事業分野**

●ドキュメント

**重点課題1**
- ●モバイルワークを支援するソリューション・サービス
- ●グローバル化に対応した多言語コミュニケーションのサポート

**重点課題2**
- ●社会全体のソリューションにつなげる働き方変革活動
- ●生産性向上とスキルアップを実現する業務プロセスの改善
- ●テレワークを活用した新たな働き方の提案

場所や時間にとらわれず、多様な人々が自らの状況に応じた働き方ができる環境の構築に向けたソリューション・サービスの提供を進めており、2つの重点課題を掲げましたが、いずれの点でも大きな貢献を果たしました。

### 1. 情報の壁を越えるコミュニケーションの促進

情報の作成・伝達・共有・保存を、紙と電子を融合して効果的に運用する独自のソリューション「ドキュメントコミュニケーション」、事業所間や企業間での柔軟なプリント環境を構築する「Cloud On-Demand Print」や多言語コミュニケーションをサポートする「スキャン翻訳サービス」などの提供により、コミュニケーションの最適化に貢献しました。

### 2. ダイバーシティーの促進

複合機やクラウドサービス「Working Folder」とのシームレスな連携を実現した「DocuWorks Mobile」などモバイルワークを支えるソリューション・サービスやワークプレイス、煩雑な付帯業務を削減する業務プロセス改革など、長年にわたり取り組んできた働き方変革の研究、実践の結果をもとにした各種ソリューションを提供することで、生産性の向上につながるお客様の働き方の変革に貢献しました。

## 新CSR計画「SVP2030」に向けて

自らの経営課題を解決した実践事例をお客様にご紹介し、お客様の課題を解決するICTやクラウド技術を活用した新しい働き方を実現する商品や、ソリューション・サービスの開発と提供により、働きがいにつながる環境づくりを進めていきます。

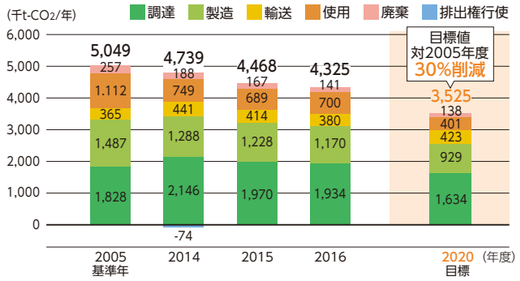
またICT技術革新が著しく進む現代においては、一人ひとりが高いパフォーマンスを発揮できる多様で柔軟な働き方を支援することは、自社の複合機やサービスだけでは実現できません。今後は様々なビジネスパートナーのクラウドサービスとの連携を進め、今まで以上に効率的な業務運用、迅速な対応、効果的なコミュニケーションを実現し、企業の働き方改革への取り組みの支援を通して、オフィスワークを新たなステージへと導きます。

## 推進方針2　生産活動などの事業プロセスにおける環境課題への積極的な取組みを推進

### SVP2016における主な活動と成果

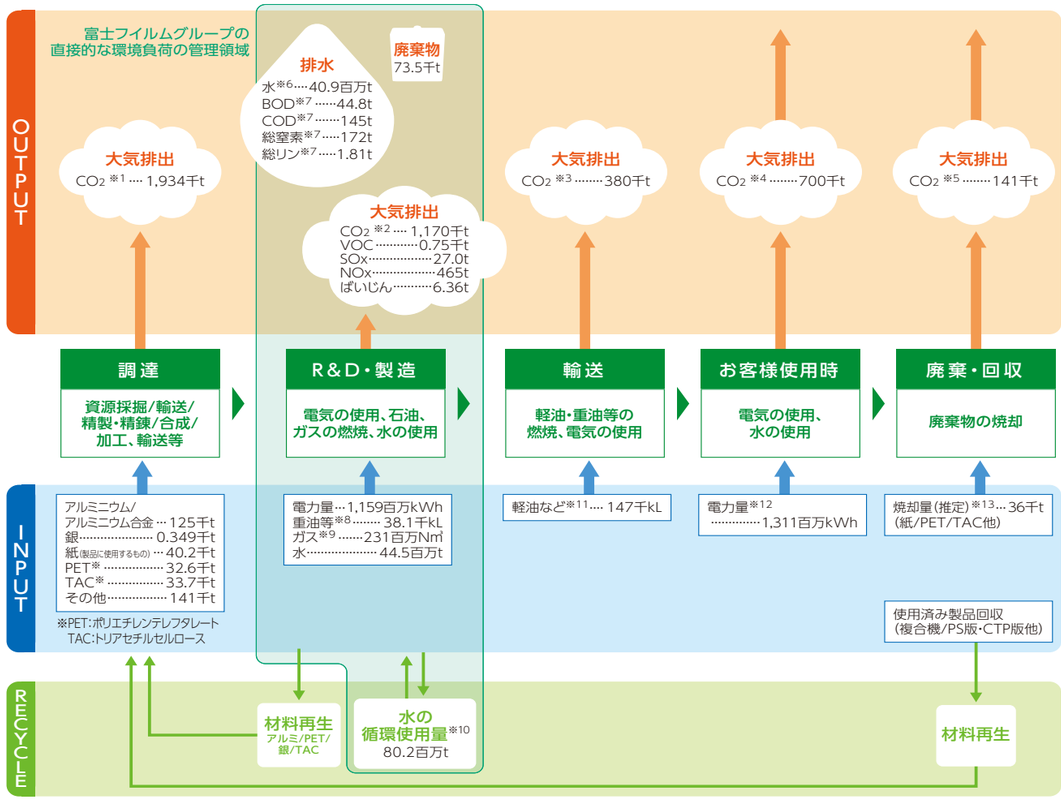
3つの重点課題を掲げ活動に取り組み、所期目標を概ね達成しました。「地球温暖化対策」は2016年中間目標の前倒し達成など2020年目標に向かい着実に削減が進みました。「資源循環」は水使用量と資源投入量は順調に目標達成し(廃棄物のみ一時的増加要因もあり未達成)、「化学物質」は国際動向も踏まえ新しい社内規則を制定、運用を開始しました。またサプライチェーン管理も強化・推進しています。

▼製品ライフサイクル全体でのCO₂排出量の推移




### 新CSR計画「SVP2030」に向けて

省エネやエネルギーの効率的利用の推進に加え、再生可能エネルギーの活用も図り、「気候変動対策」を進めていきます。「資源循環」はライフサイクル全体を考慮し削減に取り組んでいきます。また「化学物質」についてもリスク管理をさらに強化し、有効利用との両立を図っていきます。




※1　原材料の「調達」による環境負荷(原材料の資源採掘／輸送／精製・精錬／合成／加工／輸送等で発生する$CO_2$)は、主な調達原材料に対し計算
※2　製品の「製造」の環境負荷は、製造工程で用いたエネルギー(電力、石油、ガス)総量から計算
※3　製品の「輸送」での環境負荷は、国内外の輸送手段・移動距離を想定し、それぞれに対する標準的な単位重量・単位移動距離あたりの$CO_2$発生量の単価、及び、歩留まり等の補正因子を「調達」原材料の重量に掛けて計算
※4　製品の「使用」による環境負荷は、コピー・プリンター・ファクスは本年度投入機の5年間稼働消費電力として計算し、その他の製品は稼働台数等の推定値に標準的な消費電力を掛けて計算
※5　製品の「廃棄」による環境負荷は、調達原材料の廃棄負荷を推定して計算
※6　事業活動で使用した水の排出量
※7　公共用水へ排出した量
※8　A重油、C重油、灯油、軽油、ガソリンの合計(石油類をそれぞれエネルギー換算して足し合わせ、総計をA重油の量で表した)
※9　天然ガス、液化天然ガス(LNG)、都市ガス、ブタン、液化石油ガス(LPG)等の合計(ガス類をエネルギー換算して足し合わせ、総計を都市ガスの量で表した)
※10 冷却水の使用量を含む
※11 トラック輸送をメインとして算定
※12 電気事業連合会平均の$CO_2$排出係数を使用
※13 物質ごとに焼却比率を仮定
(上記において、$CO_2$発生量の原単位は、産業連関表等に基づいたデータベースを使用)





## 推進方針3　企業活動を支えるCSR基盤をバリューチェーン全体にわたり強化

### SVP2016における主な活動と成果

3つの重点課題それぞれで着実に成果を上げました。

1. グローバルなコンプライアンス意識の向上とリスクマネジメントの徹底

残念ながら富士ゼロックス海外子会社で不適切な会計処理事案が発生しましたが、グループ全体で腐敗防止、ハラスメント防止、情報セキュリティの教育や従業員の健康増進を強化してきたほか、2011年の東日本大震災の教訓を生かし、2016年の熊本地震にて、熊本にある当社のグループ会社が早期復旧を果たすなど、BCPの強化を図ることができました。

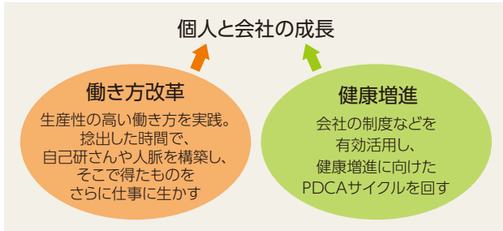
2. 多様な人材の育成と活用

人材育成マップを作成し、グローバル人材研修など人材育成に力を入れたほか、多様な人材が自らの能力を発揮し、生き生きと働ける環境づくりを進めるため、「働き方改革」と「健康経営」の両輪で様々な施策を進めました。

3. CSR視点でのバリューチェーン・マネジメントの強化

近年、世界的にサプライチェーンを通じた「持続可能な調達」という考え方が強まっていることを受け、2015年3月、グループの調達方針を改定するとともに、「調達におけるお取引先へのお願い」を明示し、お取引先でのCSR推進お取り組み状況の確認と、各社とのコミュニケーションを強化しました。

▼富士フイルムグループの考える健康経営

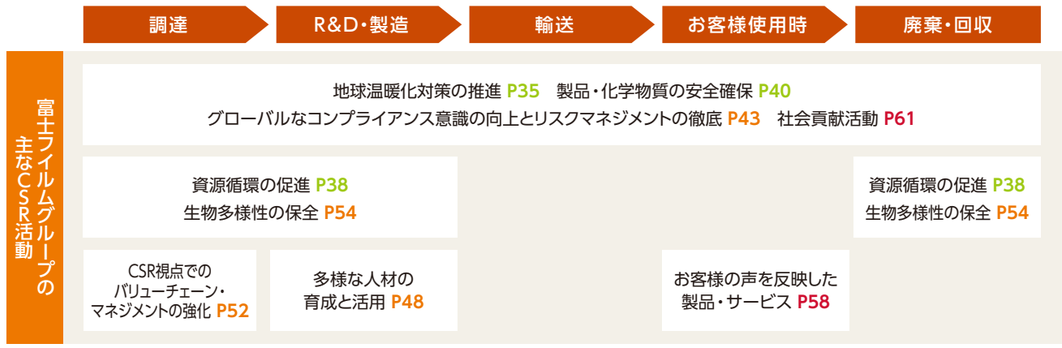



### 新CSR計画「SVP2030」に向けて

企業が事業活動を行う際、社会に対してプラスの面だけではなく、マイナスの影響も引き起こす場合があります。富士フイルムグループはそうした社会に与える影響やその責任を認識し、当社のビジョンにも掲げている「オープン、フェア、クリア」な企業風土を、改めてグループ内に浸透させ、グループの事業基盤をより一層強固なものにしていきます。

また、こうした活動をバリューチェーン全体で強化・拡大していくために、環境側面・社会的側面において、お取引先との連携を強化し、「持続可能な調達」を実現していきます。さらに従業員に関しては、多様な従業員一人ひとりが、安全に、生き生きと活躍できるよう、引き続きガバナンス強化に取り組み、職場環境や仕組みづくりに努めていきます。

▼バリューチェーン全体にわたり推進するCSR活動




▼調達におけるお取引先へのお願い

| | |
|---|---|
| 基本的人権の尊重 | 基本的人権の尊重、差別の排除、非人道的な扱いの禁止、労働者の権利、強制労働と児童労働の禁止、長時間労働の抑制、賃金、プライバシー、労働安全衛生 |
| オープン、フェア、クリアな事業活動 | 積極的なコミュニケーション、情報開示、公正取引、優越的地位の濫用禁止、腐敗防止、不当な利益提供、反社会的勢力との断絶、輸出入法令の順守、品質・製品安全、秘密情報の保護、知的財産権、個人情報 |
| 環境の保全、保護 | グリーン調達推進、地球温暖化防止、廃棄物規制、環境汚染防止、天然資源の保全 |
| マネジメント体制・仕組みの構築 | マネジメントシステム、社内外への周知 |